

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00303

研究課題名（和文）グローバルな視野からみる和漢の「文」と日本古典籍をめぐる学術文化史研究

研究課題名（英文）Historical Research on the Scholarly Culture of Sino-Japanese Letters and of Japanese Premodern Texts from a Global Perspective

研究代表者

河野 貴美子（KONO, Kimiko）

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：20386569

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：日本における和漢の「文」と日本古典籍をめぐる学術文化史をグローバルな視野から捉え、古典学の課題や意義を問い直すことを目指し、次の3項目を柱として研究を行った。

(1)日本における「文」の概念をめぐる通史を描き出す研究をWiebke DENECKE 教授と共同して進め、『日本「文」学史 通史篇』（仮）のブックプロポーザルを完成した。(2)東アジアと世界の古典学の比較研究について、Wiebke DENECKE 教授と共同して研究コミュニティ構築のためのワークショップを開催した。(3)日中古典籍の交流と融合をめぐる研究として北京大学中国語文学系と中日古典学ワークショップを開催し論集を刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現代社会における人文学の意義や古典の存在価値を問い直し、検証しようとする試みが高まる中、本研究においては、日本における和漢の「文」と日本古典籍をめぐる学術文化史について、哲・史・文の枠組みを超えた領域横断的な視野から取り組み、かつ、海外の研究者、研究機関との共同体制を築き研究を進めることができた。グローバルな人文学研究と東アジアの人文学をつなぐプラットフォーム構築のための国際ワークショップや、中日古典学ワークショップの開催は、古典学をめぐる課題を広く共有しアピールする成果となった。また中日古典学ワークショップ論集を中日両言語により刊行したことは、次世代へ繋がる国際共同研究の成果となった。

研究成果の概要（英文）：The research explored the history of the scholarly culture of Sino-Japanese "Letters" and Japanese premodern texts and assessed significant topics for today's classical studies from a global perspective. It was conducted in three larger projects.

(1) I conducted research to sketch a history of the world of "Letters" and literature in Japan in collaboration with Professor Wiebke DENECKE (MIT) and completed a book proposal for "A Comprehensive History of Japanese Literature." (2) In collaboration with Professor DENECKE we held a workshop devoted to building a research community for comparative research of classical studies of East Asia and the premodern world. (3) As part of my research on the transculturation of classical studies between premodern China and Japan, I held a workshop on Sino-Japanese classical studies with the Department of Chinese Language and Literature at Peking University, and we published an edited volume.

研究分野：和漢比較文学、和漢古文献研究

キーワード：文 日本古典籍 学術文化史 和漢 東アジア 中国古典籍 世界の古典学

1. 研究開始当初の背景

現代社会における人文学の意義、あるいは古典の存在価値を問い直し、検証しようとする試みは近年特に高まっている。人文知を支えることばや文、そして書物の世界を、この現代社会において研究し教育していくことの意味や意義が根本から問い直されている現況にあって、その問いをいかに受け止め、この先いかなる一步を踏み出していくのかを思考し、判断していくことは、関連の学界にとって喫緊の課題にはかならない。

研究代表者はこれまで、日本そして東アジア漢字漢文文化圏に形成、継承、展開されてきた学術文化のありようを検証し、その意義を明らかにするため、近代以降に "literature" の訳語として現れる「文学」以前の、広く人文知を示す概念としての「文」をキーワードとして掲げ、平成 24 年度～平成 27 年度は「日本古代の漢文文献を通してみる東アジアの文学世界及び学術交流に関する研究」(24520349)、平成 28 年度～平成 31 年度は「東アジアの視野からみる和漢の「文」の学術文化史研究」(16K02376)との研究課題のもと、基盤研究(C)を遂行してきた。その主たる成果の一つとして、『日本「文」学史 A New History of Japanese "Letterature"』全三冊(勉誠出版、2015 年～2019 年)を公刊したが、その過程で強く感じたことは、近代以降のいわゆる哲・史・文の枠組みを超えて、領域横断的に人文学の歴史と意味を再検証することの重要性である。また、それに対して多くの研究者や読者の共感が得られたことから、「文」という概念を鍵として人文知の本質に迫ろうとするアプローチが有効かつさらなる可能性を含むものであることが痛感された。加えて、『日本「文」学史』の作成過程でもう 1 点確信したことは、人文知や古典のありようについて、日本のみならず、東アジア、さらには広く世界の状況と比較研究することの必要性である。

また、研究代表者はこれまで、中国古典籍の日本における受容や消化、あるいは日本古典籍における中国古典籍や中国学術文化の影響をテーマとして調査、研究を行い、論考を発表してきたが、その過程で、2018 年より実現したのが、研究代表者が所長を務める早稲田大学総合研究機構日本古典籍研究所と、北京大学中国語文学系との共同主催による「中日古典学ワークショップ」である。これは従来、日中の中国古典学研究者同士の学術交流は盛んに行われてきたものの、日本における日本学研究者と中国における中国学研究者との学術交流関係は必ずしも多くないこと、しかしながら、中国古典籍と日本古典籍は密接な関係にあることは言うまでもなく、双方のプロパー同士の学術交流によって今後の研究をさらに推進していくことを期して企画したものである。本研究では、個別の資料の読解やその来歴の調査など、着実かつ基本的な文献研究を進めていくことも人文知や古典学の意義を迫る上で不可欠な作業であるという問題意識に基づき、中日の古典籍をめぐる研究をも取り込み、研究を計画した。

2. 研究の目的

本研究は、人文学の危機、あるいは古典学の危機といわれる現況において、その危機を、むしろ人文学や古典学の意味を再考する画期として捉え、改めてその歩みを振り返り検証しながら、現在の人文学や古典学が抱える課題を明らかにしつつ、現在そして将来における人文学や古典学の意義や役割を探ることを目指したものである。

具体的には、(1)日本における「文」の概念をめぐる通史を描き出す研究、(2)東アジアと世界の古典学の比較研究、(3)日中古典籍の交流と融合をめぐる研究、以上の 3 つの柱からのアプローチにより、和漢の「文」および日本古典籍をめぐる学術文化史研究を、グローバルな視野から追究することを研究課題の柱として掲げ、目的とした。

3. 研究の方法

本研究が研究のためのアプローチ方法として打ち立てたのは、「文」という概念からのアプローチということと、「グローバル」な視野からのアプローチということである。

近代人文学は、哲学・史学・文学を大きな柱として形成され研究が進められてきたものであり、近代以降の各領域の研究が歴大な成果を生み出してきたことは言うまでもないが、その一方で、近代人文学の枠組みが存在するばかりに、前近代の人文知の世界を総体として把握し、検証することが困難であったことは否めない。前近代の人文知に迫るには、近代以降の思考の枠組みをいったん離れ、人間の知がいかに重ねられ、それがいかにして言語化され書物となり「古典」を形成してきたのかを、トータルに眺める必要がある。「文」という概念からのアプローチは、近代人文学のあり方そのものをも再検証しつつ、人文知や古典の何たるかという本質に迫るための有効な方法であると考えられる。

また、日本の文学史を綴る際、古来多大な影響を及ぼしてきた中国や朝鮮との関係を視野に入れることはこれまでもなされてきた。しかしながら、日本から東アジアをみるというレベルを超えて、日本、中国、朝鮮の「文」を同時に見渡す「東アジア比較文学史」なるものはこれまで記されてこなかったであろう。またさらには、西洋、ペルシア、インドなど世界の古典文化圏との比較古典学に展開していくことを目指す本研究は、かつてない試みへのチャレンジである。また、同じ漢字漢文文化圏に属する日本と中国の間においても、和文で書かれた著作をも対象として、

日中の古典籍世界を総体として捉え追究しようとする本研究の試みも、従来は決して積極的に行われてきたものではない。本研究は「グローバル」な視野からのアプローチによって、こうした課題への取り組みを進めた。

なお本研究は、如上の研究を実現するために、研究代表者と研究分担者、海外の研究協力者が共同して研究を進め、その研究活動は、研究代表者が所長を務める早稲田大学総合研究機構プロジェクト研究所「日本古典籍研究所」が統括し、同じく研究代表者が所長を務める早稲田大学総合人文科学研究センター角田柳作記念国際日本学研究所の支援を受ける形で行った。

具体的には、本研究の柱とした(1)日本における「文」の概念をめぐる通史を描き出す研究、(2)東アジアと世界の古典学の比較研究、(3)日中古典籍の交流と融合をめぐる研究にそって、研究代表者・研究分担者による学際的・国際的な検討を行い、さらに研究代表者を中心に、上記(1)については、マサチューセッツ工科大学(MIT)のWiebke DENECKE 教授と共同研究を進め、共同執筆の著作刊行のための準備を進め、上記(2)についても、Wiebke DENECKE 教授と共同し、MITのComparative Global Humanities Initiativeとの連携のもと、研究を進めることとした。また上記(3)については、北京大学劉玉才教授、杜曉勤教授と連携して「中日古典学ワークショップ」を開催し、ワークショップでの成果を日中両言語による論文集として刊行することとした。

4. 研究成果

(1)日本における「文」の概念をめぐる通史を描き出す研究 は、文・史・哲の枠を超えた日本の学知の歴史を「文」の概念の変遷や画期から描き出す著作を執筆することを目標として、研究協力者であるマサチューセッツ工科大学(MIT)Wiebke DENECKE 教授と共同研究を行った。具体的には、「文」の概念や文学史研究に関する先行研究や原文資料をオンラインによる共同研究の形で読み進め、成果著作物の概要や構想について検討を重ね、最終的に全六部三十一章からなる『日本「文」学史 通史篇』(仮)の目次構成と概要を打ち立て、ブックプロポーザルを完成した。また並行して、オンラインやメール等を利用してミーティングを重ね、各章ごとに先行研究を収集し、執筆すべき内容や構造の詳細について検討しつつ、英語および日本による執筆を開始した。Wiebke DENECKE 教授との共同研究は、『日本における「文」と「ブンガク」』(勉誠出版、2013年)、『日本「文」学史』(勉誠出版、2015~2019年)以来発展的に継続、展開しているものであるが、その研究成果は、台湾で刊行された山藤夏郎他編『日本学指南 100 本研究日本人文学領域主題的經典專書』(五南圖書、2023年)においても紹介の機会を得られ、国内外にインパクトをもって迎えられるものとなっている。『日本「文」学史 通史篇』(仮)は英語、日本語の両言語で刊行する予定で、すでに出版社との契約に至っている。

(2)東アジアと世界の古典学の比較研究 は、本研究開始当初は、成果論文集の刊行を目指したワークショップやトーク・ディスカッションの開催を予定し、それに向けてWiebke DENECKE 教授と共同研究を進め、より有効なコンセプトを抽出するためのディスカッションを重ね、その研究に伴う成果の一部を論文として執筆、公表した。しかしながら、新型コロナウイルス感染症のため対面でのワークショップ等の開催が不可能となったことに鑑み、形式や方法を発展的に修正して研究活動を進めるべく、Wiebke DENECKE 教授と相談を重ね、近年の研究動向について調査しながら、今後東アジアと世界の古典学の比較研究を推進していくためさらに有効と考えられる具体的方法や題材について検討した。その過程で、Wiebke DENECKE 教授によりMITにおいてグローバルな比較人文学プロジェクトを実現するために構想されたイニシアティブ(Comparative Global Humanities initiative (MIT))が立ち上げられ、世界の地域ごとに、古代から現代までを橋渡しする共同研究を行うグループの結成が進められることとなり、その中の、東アジア古典研究に関わる研究コミュニティとプラットフォーム構築の役割を担うべく、本研究の活動を継続展開することとした。そして、2023年3月2日に、「The Lives and Deaths of Literary Cultures」をテーマとするワークショップ「地域モデルとしての漢字文化圏人文学の未来の風景を創造する：研究コミュニティとプラットフォーム構築にむけて Sketching the Future Landscape of East Asian Humanities in Comparative and Global Context: A Platform & Community Building Workshop」を開催した(<https://www.waseda.jp/inst/sgu/news-through-2023/2023/04/03/22112/>)。ワークショップは、1.参加者それぞれの現在のイニシアティブ、現在の活動の特徴や課題について、2.将来の「地域モデルとしての漢字文化圏の人文学の創成」に対してどのような貢献が可能か。実現したいプラン、アイデア、方法、課題について、3. The Lives and Deaths of Literary Culturesのプランに対する意見、提案、今後の具体的活動について、という3つの課題に対して、研究分担者をはじめとする国内外合計12名の発表者が発表を行い、ディスカッションを重ねるといって進行した。ディスカッションにおいては、漢字文化圏、あるいは東アジアという概念を批判的に検証しながらいかなる枠組みを立ち上げていくべきか、そして、未来の平和な世界を創造していくためにも、正負両面から過去を見据え、未来へと繋ぐことが必要であるなど、新たな人文学を構築していくための目標や理想について、それぞれの専門領域や地域を超えた活発かつ実質的な議論が展開された。このワークショップの成果を受けて、引き続き当該 Initiative との連携のもと、今後は「外交術」をテーマとするワークショップを開催、論集を刊行すべく取り組みを続けている。

(3)日中古典籍の交流と融合をめぐる研究 は、北京大学の劉玉才教授、杜曉勤教授との連携のもと、当初は、毎年、北京大学中国語文学系と共同して中日古典学ワークショップを開催する予定であったが、コロナ禍による渡航制限が続いたため、2020-2021年度はワークショップ

プの開催を見送った。これは、このワークショップが言語の違いを超えて、対話とディスカッションを重視するものであるため、できる限りオンラインではなく対面での開催が望まれたことによる判断であった。そしてその間、2018年、2019年に開催した第一回と第二回の中日古典学ワークショップの成果論集刊行に向けて執筆と編集を進めた。2022年度は、渡航制限がなかなか解けない状況に鑑み、やむなくオンラインでの開催としたが、第三回中日古典学ワークショップを実施した(2022年11月12日、13日。<https://www.waseda.jp/inst/sgu/news-through-2023/2023/01/24/19564/>)。本ワークショップは、「中日古典学の交流と融合」を統一テーマとしているが、第三回は特に「典籍文献研究(中日類書、類聚、事典、爾雅類典籍)」を具体的テーマとして設定した。字書や辞書、そしてさまざまな典籍の情報を類聚して編纂された類書は、知の体系を体現するものにほかならず、中日双方のそれらを同時に比較検討することは、漢字漢文文化圏における学知の重なりや変化を映し出す、きわめて有効な切り口となることがワークショップの議論を通して改めて浮き彫りとなった。当該ワークショップには、早稲田大学と北京大学の教員15名、および両校の大学院生、キャリア初期研究者12名、合わせて27名の研究発表が行われ、相互の質疑、討論を通して実質的な学术交流が展開される充実した時間となった。そして2023年度は、北京大学にて第四回中日古典学ワークショップをハイフレックス形式で開催した(2023年11月6日、7日。<https://www.waseda.jp/inst/sgu/news-through-2023/2023/12/19/28381/>)。第四回は「文」と「集」(中日古代“文”“集”観念及相互関係)をテーマとして設定し、歴代の「集」がいかなる材料を用いて、いかなる編纂方針のもと生み出されてきたのか、またそこにはいかなる意図が含まれ、いかなる価値観を形成してきたのかなど、「集」というものの存在についてきわめて多角的、そして本質的な問題が提出された。また、中国古典文献における「集」とその他の「経・史・子」との関係や、その枠組み、分類の変遷などについて、古代から近現代にいたるまで通史的な見通しからの問題提起もあった。さらには、「文」という概念の含意、「文」の型や機能について、「集」とのかかわりから考察し、その意味を浮かび上がらせようとする試みも示されるなど、古典学研究をめぐって、中日共同で議論することの重要性が再確認されるとともに、相互にとってのさまざまな「発見」の契機となるワークショップとなった。ワークショップでは、合計19名の中日の研究者、および8名の大学院生による発表が行われた。また、2018年と2019年に開催した第一回、第二回中日古典学ワークショップの成果として、中国語版論集『文献・文学・文化 中日古典学交流与融通工作坊論集・第一巻』(杜曉勤・河野貴美子編、北京大学出版社、2022年)および日本語版論集『中日古典学ワークショップ論集 第一巻 文献・文学・文化』(河野貴美子・杜曉勤編、汲古書院、2023年)を刊行した。本ワークショップおよび成果論集の刊行は、2024年度以降も継続して行っていく計画である。

さらに、上記の3つの課題にそって進めた研究代表者・研究分担者の研究によって、日本における「文」概念成立の史的背景や、中国古典籍の日本古典籍への影響、東アジア的視点(漢字文化圏)からみた日本古典籍の特徴などを、具体的に明らかにすることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計60件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 河野貴美子（楽曲 訳）	4. 巻 25
2. 論文標題 日本平安時代の中国典籍受容 以空海《秘藏宝鑰》、藤原敦光《秘藏宝鑰鈔》為例	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 卞東波編『域外漢籍研究集刊』 / 中華書局	6. 最初と最後の頁 pp.75-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子（鄧曉ショウ 訳）	4. 巻 1
2. 論文標題 儒教在日本中世の伝播与接受	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 張哲俊主編『東方學術』 / 四川大学出版社	6. 最初と最後の頁 pp.25-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 魏樸和(Wiebke DENECKE, 河野貴美子（黄如萍 訳）	4. 巻 -
2. 論文標題 河野貴美子・魏樸和（Wiebke DENECKE）等編、《日本「文」学史》第1～3冊	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 山藤夏郎・林承緯・陳志文・柳瀬善治・楊素霞・榊祐一・羅暎動編『日本学指南 100本研究日本人文科学領域主題的經典專書』 / 五南圖書	6. 最初と最後の頁 pp.315-318
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 -
2. 論文標題 中国古代典籍的流传・重组・变异 以空海《秘密曼荼羅教付法伝》為中心	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 劉玉才主編『（中華文明伝播史研究叢刊）東亞漢籍与漢文学論集 初編』（商務印書館）	6. 最初と最後の頁 pp.203-221
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 -
2. 論文標題 燕京大学図書館の蔵書形成を通してみる学問の近代化と伝統文化 「美術類」を例に	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 重田みち編 『「伝統文化」を問い直す』 / 臨川書店	6. 最初と最後の頁 pp.368-387
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 29
2. 論文標題 目録学からたどる仏教説話集の展開とその位置	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 河野貴美子・李銘敬編 『日本文学研究ジャーナル 特集 仏教と説話』 / 古典ライブラリー	6. 最初と最後の頁 pp.111-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 1
2. 論文標題 写本時代の書字と文学の媒体 『遍照發揮性霊集』を通してみる	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 河野貴美子・杜暁勤編 『中日古典学ワークショップ論集 文献・文学・文化 』 (汲古書院)	6. 最初と最後の頁 pp.331-363
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 1
2. 論文標題 『源氏物語』 「少女」巻における漢詩文引用 陸機「豪士賦 序」が引かれる意味	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 河野貴美子・杜暁勤編 『中日古典学ワークショップ論集 文献・文学・文化 』 (汲古書院)	6. 最初と最後の頁 pp.237-244
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高松寿夫	4. 巻 101-3
2. 論文標題 箭集虫麻呂「侍讖」詩をめぐって	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『国語と国文学』	6. 最初と最後の頁 pp.3-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高松寿夫	4. 巻 1
2. 論文標題 「弁正」か「辨正」か 『懐風藻』詩人の表記をめぐって	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 河野貴美子・杜暁勤編 『中日古典学ワークショップ論集 文献・文学・文化』 (汲古書院)	6. 最初と最後の頁 pp.197-214
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中史生	4. 巻 1
2. 論文標題 『白氏文集』恵尊書写本の伝来	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 河野貴美子・杜暁勤編 『中日古典学ワークショップ論集 文献・文学・文化』 (汲古書院)	6. 最初と最後の頁 pp.367-383
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉原浩人	4. 巻 -
2. 論文標題 平安時代における仏教と孝思想 菅原文時「為謙徳公報恩修善願文」を読む	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 雫雪艶・黒田彰編 『東アジアの「孝」の文化史』 (勉誠社)	6. 最初と最後の頁 pp.208-223
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉原浩人	4. 巻 13
2. 論文標題 菅原文時「為謙徳公報恩修善願文」訳註	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『多元文化』	6. 最初と最後の頁 18-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 -
2. 論文標題 日本伝存資料を通してみる唐代典籍文化の統一性と多様性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 渡邊義浩編『中国文化の統一性と多様性』(汲古書院)	6. 最初と最後の頁 pp.387-417
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 23・24
2. 論文標題 中國古代典籍的流傳・重組・變異 以空海《秘密漫荼羅教付法傳》爲中心	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 北京大學國際漢學研修基地編『國際漢學研究通訊』(北京大学出版社)	6. 最初と最後の頁 pp.31-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 -
2. 論文標題 写本時代的書写和文学载体 以《遍照發揮性靈集》爲例的考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 杜曉勤・河野貴美子主編『文献・文学・文化：中日古典学交流与融通工作坊論集・第一卷』(北京大学出版社)	6. 最初と最後の頁 pp.190-211
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kimiko Kono	4. 巻 -
2. 論文標題 Nihon ryoiki: Its "Letters", and their Relevance for the History of Literature	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Images from the Past: Intertextuality in Japanese Premodern Literature, edited by Carolina Negri and Pier Carlo Tommasi, Edizioni Ca'Foscari	6. 最初と最後の頁 pp.143-165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 74
2. 論文標題 北京人文科学研究所における蔵書形成と中国古典學	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『日本中国學會報』(日本中国學會)	6. 最初と最後の頁 pp.205-220
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 -
2. 論文標題 平安漢文学からみた唐物 文具を中心として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 河添房江・皆川雅樹編 『【アジア遊学275】「唐物」とは何か 舶載品をめぐる文化形成と交流』(勉誠出版)	6. 最初と最後の頁 pp.183-195
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 -
2. 論文標題 『仙源抄』の注釈方法 漢字をあてる注を中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中野幸一編 『平安文学の饗宴』(勉誠出版)	6. 最初と最後の頁 pp.439-464
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則（馬如慧 訳）	4. 巻 -
2. 論文標題 試論《源氏物語・少女》中の漢詩文引用 以引用陸機《豪士賦序》の意義爲例	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 杜曉勤・河野貴美子主編『文献・文学・文化：中日古典学交流与融通工作坊論集・第一巻』（北京大学出版社）	6. 最初と最後の頁 pp.130-135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 236
2. 論文標題 明治期から昭和前期の『源氏物語』 注釈書・現代語訳・梗概書	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『文学・語学』（全国大学国語国文学会）	6. 最初と最後の頁 pp.40-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 -
2. 論文標題 『源氏物語』「篝火」巻における韻律的表現 その全文を対象とした試論	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中野幸一編『平安文学の饗宴』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 pp.163-184
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高松寿夫（顧サンサン 訳）	4. 巻 -
2. 論文標題 《懷風藻序》對唐太宗時期文本的運用	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 杜曉勤・河野貴美子主編『文献・文学・文化：中日古典学交流与融通工作坊論集・第一巻』（北京大学出版社）	6. 最初と最後の頁 pp.98-110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉原浩人	4. 巻 -
2. 論文標題 呉越・宋・高麗への返書・返牒と自讃 大江家伝来の外交文書と対外意識	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 瀧朝子編『呉越国 10世紀東アジアに華開いた文化国家』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 pp.40-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉原浩人	4. 巻 12
2. 論文標題 磯長聖徳太子廟と「廟岨偈」をめぐる言説	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『多元文化』（早稲田大学多元文化学会）	6. 最初と最後の頁 pp.47-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 98-5
2. 論文標題 空海の文事を通してみる平安朝文学史の一考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『国語と国文学』（東京大学国語国文学会）	6. 最初と最後の頁 pp.3-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 -
2. 論文標題 漢籍の受容と交流	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鈴木靖民監修、高久健二・田中史生・浜田久美子編『古代日本対外交流史事典』（八木書店）	6. 最初と最後の頁 pp.336-348
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 108
2. 論文標題 これからの日本古典籍研究のビジョンをめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『中古文学』（中古文学会）	6. 最初と最後の頁 pp.29-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 -
2. 論文標題 従《三教指帰》及《三教指帰注集》看《孝経》的受容	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 雋雪艶・黒田彰主編『孝文化在東亜的伝承和発展』（上海遠東出版社）	6. 最初と最後の頁 pp.106-121
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 -
2. 論文標題 《源氏物語》古注釋書所引漢籍考 以《光源氏物語抄》爲例	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 卞東波編『縞紵風雅：第二届南京大学域外漢籍研究國際學術研討會論文集』（中華書局）	6. 最初と最後の頁 pp.361-376
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 41
2. 論文標題 『日本靈異記』の表現と内部連関からみるその主張	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 鉄野昌弘・奥村和美編『萬葉集研究』（塙書房）	6. 最初と最後の頁 pp.239-285
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 69
2. 論文標題 早稲田大学図書館所蔵 富岡鉄斎旧蔵明刊『釈氏源流』について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『早稲田大学図書館紀要』（早稲田大学図書館）	6. 最初と最後の頁 pp.1-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 9
2. 論文標題 時空を超える『源氏物語』 文学上の理念・理論との相互作用	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『WASEDA RILAS JOURNAL』（早稲田大学総合人文科学研究センター）	6. 最初と最後の頁 pp.370-360
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 261
2. 論文標題 『枕草子』におけるテキストの真正性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 【アジア遊学261】『古典は遺産か？ 日本文学におけるテキスト遺産の利用と再創造』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 pp.109 - 121
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 195
2. 論文標題 『堤中納言物語』「はなだの女御」論 物語から遠くはなれて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『国文学研究』（早稲田大学国文学会）	6. 最初と最後の頁 pp.67-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 43
2. 論文標題 『堤中納言物語』 「貝あはせ」論 観音信仰を虚仮にする物語	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 古代中世文学論考刊行会編『古代中世文学論考』（新泉社）	6. 最初と最後の頁 pp.203 - 223
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高松寿夫	4. 巻 -
2. 論文標題 近代における万葉集の注釈	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 上野誠・鉄野昌弘・村田右富実 編『万葉集の基礎知識』（角川選書）	6. 最初と最後の頁 pp.224-232
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高松寿夫	4. 巻 -
2. 論文標題 《日本書紀》中の“孝” 有関“孝” 的歴史叙述	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 雋雪艶・黒田彰 主編『孝文化 在東亞的伝承和発展』（上海遠東出版社）	6. 最初と最後の頁 pp.145-159
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高松寿夫	4. 巻 15
2. 論文標題 下毛野虫麻呂「秋日於長王宅宴新羅客詩序」について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『早稲田大学日本古典籍研究所年報』（早稲田大学日本古典籍研究所）	6. 最初と最後の頁 pp.40-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中史生	4. 巻 74
2. 論文標題 古代文献から読み取れる日本列島内の百済系・中国系移住民	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『百済研究』	6. 最初と最後の頁 pp.43-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中史生	4. 巻 232
2. 論文標題 『平家物語』と薩摩塔 海商船と南九州	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『国立歴史民俗博物館研究報告』(国立歴史民俗博物館)	6. 最初と最後の頁 pp.301-318
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉原浩人	4. 巻 11
2. 論文標題 日本古代の漢文学における馬の形象 附・湖南省大禹碑探訪記	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『多元文化』(早稲田大学多元文化学会)	6. 最初と最後の頁 pp.44-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 14
2. 論文標題 『日本霊異記』の用字と表現	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『日本文学研究ジャーナル 特集 奈良・平安の漢詩文』古典ライブラリー	6. 最初と最後の頁 71-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 -
2. 論文標題 北京人文科学研究所の蔵書から考える「投企する古典性」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 荒木浩編『古典の未来学 Projecting Classicism』文学通信	6. 最初と最後の頁 275-300
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Wiebke DENECKE, 河野貴美子	4. 巻 -
2. 論文標題 「日本文学史」の今後一〇〇年 『日本「文」学史』から見通す	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 荒木浩編『古典の未来学 Projecting Classicism』文学通信	6. 最初と最後の頁 559-568
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 192
2. 論文標題 空海の「文」をめぐる一考察 『遍照發揮性靈集』にみる実践と思考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『国文学研究』早稲田大学国文学会	6. 最初と最後の頁 16-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 4
2. 論文標題 儒教の伝播と受容 古代・中世	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 佐藤文子・上島享編『日本宗教史4 宗教の受容と交流』吉川弘文館	6. 最初と最後の頁 126-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kimiko Kono, Translated by Jeffrey Knott	4. 巻 -
2. 論文標題 Japanophone Glosses (kunten) in Printed and Digitized Manuscripts	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Impagination ; Layout and Materiality of Writing and Publication, ed. Ku-ming (Kevin) Chang, Anthony Grafton and Glenn W. Most	6. 最初と最後の頁 351 ~ 374
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/9783110698756-013	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 -
2. 論文標題 危機下の「文」の機能とその力 空海の場合	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 久保朝孝編『危機下の中古文学2020』武蔵野書院	6. 最初と最後の頁 207-221
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 -
2. 論文標題 日本における中国漢籍の利用	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 金文京編『東アジア文化講座 第2巻 漢字を使った文化はどう広がっていたのか 東アジアの漢字漢文文化圏』文学通信	6. 最初と最後の頁 423-427
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Jinno Hidenori, Translated by Jeffrey Knott	4. 巻 BmE Special Issue7
2. 論文標題 Monogatari Literature of the Heian Period and Narratology. On the Problem of Grammatical Person and Character	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Narratological Perspectives on Premodern Japanese Literature, Oldenburg(online)	6. 最初と最後の頁 25-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.25619/BmE20203110	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 66
2. 論文標題 『堤中納言物語』 「思はぬ方にとまりする少将」論 多様な女房たちの標本	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『早稲田大学大学院文学研究科紀要』 早稲田大学大学院文学研究科	6. 最初と最後の頁 105-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 -
2. 論文標題 『堤中納言物語』 「虫めづる姫君」の主人公と女房たち 異質さとのかわり方	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 久保朝孝編 『危機下の中古文学2020』 武蔵野書院	6. 最初と最後の頁 283 - 296
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高松寿夫	4. 巻 14
2. 論文標題 「養老改元詔」の語彙	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『日本文学研究ジャーナル 特集 奈良・平安の漢詩文』 古典ライブラリー	6. 最初と最後の頁 21-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高松寿夫	4. 巻 97-12
2. 論文標題 大伴家持の「江南美女詠」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『国語と国文学』 東京大学国語国文学会	6. 最初と最後の頁 3-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高松寿夫	4. 巻 -
2. 論文標題 朝顔の姫君とその物語の造形 「朝顔」の由来・「ねびまさる」女君・「ほほゆがむ」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 久保朝孝編『源氏物語を開く』武蔵野書院	6. 最初と最後の頁 241-251
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高松寿夫	4. 巻 -
2. 論文標題 近代における万葉集の注釈	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 上野誠・鉄野昌弘・村田右富実編『万葉集の基礎知識』角川書店	6. 最初と最後の頁 224-232
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中史生	4. 巻 -
2. 論文標題 百済王氏と百済郡、高麗王氏・肖奈王氏と高麗郡	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本高麗浪漫学会監修、須日勉・荒井秀規編『渡来文化研究2 古代日本と渡来系移住民 百済郡と高麗郡の成立』高志書院	6. 最初と最後の頁 11-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉原浩人	4. 巻 10
2. 論文標題 慶滋保胤「春生逐地形」詩序訳註 白居易詩文摂取の方法(三)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『多元文化』早稲田大学多元文化学会	6. 最初と最後の頁 51-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計56件（うち招待講演 25件 / うち国際学会 30件）

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 『釈氏源流』を通して見る明代絵入り刊本の出版と流通
3. 学会等名 2023年度説話文学学会大会（60周年記念大会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 早稲田大学図書館所蔵安南関係古典籍からみる日越間の漂流、交流、研究史
3. 学会等名 国際シンポジウム「中近世におけるベトナムと東アジア諸国間の文化・文学交流」（主催：タンロン大学 タンロン認識・教育研究所） （招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 Writing media and reading styles: the tapestry of chinese " letters " in kukai and beyond
3. 学会等名 EAJS 2023, the 17th International Conference of the European Association for Japanese Studies (EAJS)（於ベルギー・ゲント大学）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 平安期初頭の仏者の文 『日本霊異記』の作文方法
3. 学会等名 高麗大学校4段階BK21中日教育研究団海外碩学招請講演会（於 高麗大学校青山MK文化館201号）（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 平安期初頭の仏者の文 空海が伝えた文の世界
3. 学会等名 高麗大学校4段階BK21中日教育研究団海外碩学招請講演会（於 高麗大学校青山MK文化館201号）（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 全球化時代の中文古籍跨国目録の構思
3. 学会等名 世界高校中文古籍論壇（主催：全国高等院校古籍整理研究工作委員会）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 近現代日本の中国学及漢文学研究状況管窺
3. 学会等名 馬來亜大学中文系60周年紀念漢学国際研討会 21世紀漢学/中文系の定位与未来（マラヤ大学中文系）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 從近代中日図書館の圖書分類看中国古典学の課題与可能
3. 学会等名 北京論壇2023 文明的和諧与共同繁栄 伝承与互鑑（北京大学・北京市教育委員会・崔鐘賢学院）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 『本朝文集』の編纂を通して見る「文」と「集」
3. 学会等名 “中日古典学交流与融通工作坊”第四届学术研讨会（主催：北京大学中国語言文学系・早稲田大学総合研究機構日本古典籍研究所・スーパーグローバル大学創成支援事業 早稲田大学国際日本学拠点）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 書跡文化の「遺産化」の諸相
3. 学会等名 国際ワークショップ「近現代日本を生きるテキスト遺産 モノ、営為、世界」（於早稲田大学）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 国際日本学の10年 研究の過去・現在・未来
3. 学会等名 SGU10周年記念シンポジウム 日本 史をひらく（主催：スーパーグローバル大学創成支援事業 早稲田大学国際日本学拠点、早稲田大学総合人文科学研究センター 角田柳作記念国際日本学研究所）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 陣野英則
2. 発表標題 『源氏物語』本文と国宝『源氏物語絵巻』との間 語り手への注目から
3. 学会等名 国際シンポジウム「前近代日本のナラティブのメディアリティ」（於チューリッヒ大学）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 陣野英則
2. 発表標題 『源氏物語』において揺り戻される時間をめぐって」、SNSFプロジェクト・方法論
3. 学会等名 ワークショップ「中世の日本文学における時間と感情」（於チューリッヒ大学）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 陣野英則
2. 発表標題 近代国文学の「古典」と「国際化」
3. 学会等名 国際ワークショップ「近現代日本を生きるテキスト遺産 モノ、営為、世界」（於早稲田大学）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 陣野英則
2. 発表標題 『源氏物語』の注釈をめぐって 古注釈と近現代の注釈書を往還する
3. 学会等名 『源氏物語』の注釈書をテーマとするワークショップ（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 陣野英則
2. 発表標題 平安時代の物語における笑い
3. 学会等名 平安から明治時代にかけての笑いと日本文化（パリ・シテ大学、Centre de recherche sur les civilisations de l'Asie orientale）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 高松寿夫
2. 発表標題 『万葉集』の構成秩序
3. 学会等名 “中日古典学交流与融通工作坊”第四届学术研讨会（主催：北京大学中国語言文学系・早稲田大学総合研究機構日本古典籍研究所・スーパーグローバル大学創成支援事業 早稲田大学国際日本学拠点）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田中史生
2. 発表標題 『本朝文粹』と日本の対外認識
3. 学会等名 “中日古典学交流与融通工作坊”第四届学术研讨会（主催：北京大学中国語言文学系・早稲田大学総合研究機構日本古典籍研究所・スーパーグローバル大学創成支援事業 早稲田大学国際日本学拠点）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 阿育王塔伝承の中国と日本への展開
3. 学会等名 浙江省中日関係史学会年度大会・第二回「浙江と東アジア」国際シンポジウム（主催：浙江省中日関係史学会・浙江工商大学東亜研究院、於中国杭州市浙江工商大学）（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 『聖徳太子絵伝』の秘事口伝 - 救世観音の転生と真宗 -
3. 学会等名 龍谷大学世界仏教文化研究センター・学術シンポジウム「聖徳太子と真宗の文化遺産 秘伝・図像と信仰の世界」（於龍谷大学大宮学舎東翼101号大教室）（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 『釈氏源流』仏教東伝記事の歴史観と挿図の意味
3. 学会等名 2023年度説話文学学会大会（60周年記念大会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 唐・五代・北宋時代の日本における西湖のイメージ
3. 学会等名 「西湖文化在亞洲地区的傳播及影響」國際論壇（主催：杭州西湖風景名勝區管理委員會・杭州市園林文物局・杭州市西湖世界文化遺產監測管理センター、於中国浙江省杭州市金溪山莊）（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 西明寺道宣と阿育王塔伝承 日本仏教に与えた影響とその意義
3. 学会等名 清華大学外文系講演（於中国北京市清華大学外文系南楼204室）（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 許渾『丁卯集』と平安朝漢文学
3. 学会等名 “中日古典学交流与融通工作坊”第四届学术研讨会（主催：北京大学中国語言文学系・早稲田大学総合研究機構日本古典籍研究所・スーパーグローバル大学創成支援事業 早稲田大学国際日本学拠点）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 『善光寺縁起』の疫癘表現 『請觀音經』から『善光寺如来繪伝』へ
3. 学会等名 日本佛教学会第92回学術大会「仏教と病」（於駒澤大学）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 從中華文明伝播史看日本平安時期的語言及學術体系
3. 学会等名 “中華文明日本伝播史”工作坊（オンライン、北京大学國際漢學家研修基地）（國際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 明刊仏教典籍在東亞的伝播 以早稲田大学図書館蔵《积氏源流》為例
3. 学会等名 “東亜古典学研究”學術研討会（オンライン、主催：湖南師範大学語言与文化研究院・湖南師範大学外国語学院・湖南師範大学東北亞研究中心・湖南師範大学“一帶一路”文化交流与伝播研究中心）（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 古代日本の書法与文字媒体
3. 学会等名 第四届跨文化漢字國際學術研討会（オンライン、主催：教育部人文社科重点研究基地四川大学中国俗文化研究所、共催：鄭州大学漢字文明研究中心・四川大学漢語史研究所）（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 鎌倉期成立の金言成句集にみる「知」 『明文抄』を例として
3. 学会等名 第三回中日古典学ワークショップ（オンライン、主催：早稲田大学総合研究機構日本古典籍研究所・スーパーグローバル大学創成支援事業 早稲田大学国際日本学拠点・北京大学人文学部・北京大学中国語文学系）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 雑誌『禹貢』を通して考えるポストコロナ期の人文学
3. 学会等名 第14回東アジア人文学フォーラム（オンライン、主催：早稲田大学総合人文科学研究センター）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 陣野英則
2. 発表標題 『つつほ物語』と『源氏物語』における廃墟的な場
3. 学会等名 国際シンポジウム「古代・中世日本における廃墟の文化史」（於 早稲田大学）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 高松寿夫
2. 発表標題 智光『浄名玄論略述』の注釈言説
3. 学会等名 第三回中日古典学ワークショップ（オンライン、主催：早稲田大学総合研究機構日本古典籍研究所・スーパーグローバル大学創成支援事業 早稲田大学国際日本学拠点・北京大学人文学部・北京大学中国語文学系）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田中史生
2. 発表標題 9～10世紀日本の東アジアとの交流
3. 学会等名 日本考古学協会2022年度福岡大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田中史生
2. 発表標題 文献からみた古墳時代中期と東アジア
3. 学会等名 中国四国前方後円墳研究会 第25回研究集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田中史生
2. 発表標題 文献からみた古代の武器・武具生産組織と渡来系技術・文化 雑戸籍を手がかりに
3. 学会等名 第18 回古代武器研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田中史生
2. 発表標題 秦氏と宗像の神 「秦氏本系帳」を手がかりとして
3. 学会等名 「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群 特別研究事業成果報告会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 磯長聖徳太子廟と「廟岨偈」をめぐる言説（シンポジウム講演）
3. 学会等名 早稲田大学多元文化学会2022年度春期大会シンポジウム「聖徳太子1400年遠忌記念 聖徳太子の実像と伝承」（於早稲田大学、主催：早稲田大学多元文化学会、早稲田大学文化構想学部多元文化論系）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 平安時代の白山信仰と泰澄伝
3. 学会等名 令和四年度藝林会学術研究大会「山岳信仰をめぐる諸問題」（オンライン）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 慶滋保胤の『白氏六帖』受容
3. 学会等名 第三回中日古典学ワークショップ（オンライン、主催：早稲田大学総合研究機構日本古典籍研究所・スーパーグローバル大学創成支援事業 早稲田大学国際日本学拠点・北京大学人文学部・北京大学中国語文学系）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 杭州西湖を愛した白居易と平安朝文人貴族
3. 学会等名 シリーズ講義「アジア共同体の構築 その歴史・文化・思想」（於 中国江蘇省常州市常州大学（オンライン）、主催：常州大学外国語学院）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 大江匡衡「天台返牒」を読む 杭州と比叡山を結ぶ天台典籍
3. 学会等名 於 中国浙江省杭州市浙江工商大学東亜研究院、主催：浙江工商大学東亜研究院・日本研究中心（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 中国古代典籍の流传・重組・変異 以空海《秘密漫荼羅教付法伝》為中心
3. 学会等名 中華文明伝播史系列工作坊 東亜漢籍伝播研究討論会 / 北京大学国際漢学家研修基地主催（騰訊線上会議）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 日本伝存資料を通して見る唐代典籍文化の統一性と多様性
3. 学会等名 第2回中国文化研究国際論壇（主催：一般財団法人東方学会、中国社会科学院古代史研究所）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 これからの日本古典籍研究のビジョンをめぐって
3. 学会等名 中古文学会2021年度春季大会 大会企画 シンポジウム「リベラル・アーツとしての古典研究の可能性」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 Heian kanshibun in early modern Japan: Hayashi Gaho's Honcho ichinin isshu
3. 学会等名 eajs 2021 16th International Conference of the European Association for Japanese Studies
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高松寿夫
2. 発表標題 『万葉集』にみる古代日本の海運と港湾 官人の移動を中心に
3. 学会等名 ワークショップ「文学にみる港の歴史・記憶」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 『心性罪福因縁集』と奉先源清の著作
3. 学会等名 令和3年度浄土宗総合学術大会 於大正大学（オンライン開催）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 杭州水心寺斉隱の果たした役割 北宋・撰閑期の書籍往反（基調講演）
3. 学会等名 「東アジアから見た中日文化関係 渡日中国人を中心に」国際学術シンポジウム 浙江工商大学東方語言与哲学学院・東亜研究院・日本研究中心主催 於中国浙江省杭州市浙江工商大学（対面・オンライン併催）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 湖南省の大禹伝承と日本古代の禹の形象（基調講演）
3. 学会等名 「東アジア視野における湖南と日本」国際シンポジウム 湖南師範大学外国語学院主催 於中国湖南省長沙市湖南師範大学（対面・オンライン併催）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 『大乘本生心地観経』訳経と日本文人への影響 般若・靈仙・白居易・菅原文時（基調講演）
3. 学会等名 早稲田大学総合人文科学研究センター二〇二一年度年次フォーラム 国際シンポジウム「東アジア文化交流 古代・中世仏教の相互往来」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 空海の“文”初探 以《遍照發揮性靈集》為中心
3. 学会等名 北京大学“東方文学・“新糸路与新思路”暑期学校（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 『日本霊異記』の「文」とその文学史的意義
3. 学会等名 International Symposium Images from the Past: Intertextuality in Japanese Premodern Literature（於 Ca' Foscari 大学、ただしオンライン開催）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 陣野英則
2. 発表標題 『枕草子』におけるテキストの真正性
3. 学会等名 早稲田大学 オンライン・ワークショップ「テキスト遺産の利用と再創造 日本古典文学における所有性、作者性、真正性」(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 陣野英則
2. 発表標題 『源氏物語』と文学理論における相互作用
3. 学会等名 第12回 東アジア人文学フォーラム(第十二屆東亞人文學論壇「典範轉移 東亞文化的互動與整合」)(於 國立臺灣大學文學院、ただしオンライン開催)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田中史生
2. 発表標題 古代文献から読み取れる日本列島内の百済系・中国系移住民
3. 学会等名 韓国忠南大学校百済研究所学術大会「百済定着の外国人と百済系移住民の交流」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 呉越・北宋の書籍・文物交流と平安仏教・文学 源信と齋然を中心に
3. 学会等名 中国人民大学日本人文社会科学研究中心・中国人民大学外国語学院日語系・早稲田大学日本宗教文化研究所共催講演会(於中国人民大学明德新聞楼404教室、ただしオンライン開催)(招待講演)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 河野貴美子・李銘敬編	4. 発行年 2024年
2. 出版社 古典ライブラリー	5. 総ページ数 127
3. 書名 日本文学研究ジャーナル 第29号 特集 仏教と説話	

1. 著者名 河野貴美子・杜曉勤編	4. 発行年 2024年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 720
3. 書名 中日古典学ワークショップ論集 文献・文学・文化 第一巻	

1. 著者名 杜曉勤・河野貴美子主編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 北京大学出版社	5. 総ページ数 448
3. 書名 文献・文学・文化 : 中日古典学交流与融通工作坊論集	

1. 著者名 陣野英則	4. 発行年 2022年
2. 出版社 新典社	5. 総ページ数 320
3. 書名 堤中納言物語論 読者・諧謔・模倣	

1. 著者名 吉川真司、田中史生他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 332
3. 書名 軍事と対外交渉	

1. 著者名 Edoardo Gerlini・河野貴美子 共編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 240
3. 書名 【アジア遊学261】『古典は遺産か？ 日本文学におけるテキスト遺産の利用と再創造』	

1. 著者名 寺田澄江・陣野英則・木村朗子 共編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 青簡舎	5. 総ページ数 434
3. 書名 『身と心の位相 源氏物語を起点として』	

1. 著者名 河野貴美子・高松寿夫	4. 発行年 2020年
2. 出版社 古典ライブラリー	5. 総ページ数 120
3. 書名 『日本文学研究ジャーナル 第14号 特集 奈良・平安の漢詩文』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	高松 寿夫 (TAKAMATSU Hisao) (40287933)	早稲田大学・文学学術院・教授 (32689)	
研究分担者	陣野 英則 (JINNO Hidenori) (40339627)	早稲田大学・文学学術院・教授 (32689)	
研究分担者	田中 史生 (TANAKA Fumio) (50308318)	早稲田大学・文学学術院・教授 (32689)	
研究分担者	吉原 浩人 (YOSHIHARA Hiroto) (80230796)	早稲田大学・文学学術院・教授 (32689)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	デーネーケ ヴィーヴケ (DENECKE Wiebke)		
研究協力者	劉 玉才 (LIU Yucai)		
研究協力者	杜 曉勤 (DU Xiaoqin)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計4件

国際研究集会 第四回中日古典学ワークショップ（第四届中国古典学工作坊）	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 第三回中日古典学ワークショップ（第三届中国古典学工作坊）	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 第2回国際ワークショップ「東アジア古典研究のグローバル化を目指して 古典翻訳の現在と未来」	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 ワークショップ「地域モデルとしての漢字文化圏人文学の未来の風景を創造する：研究コミュニティとプラットフォーム構築にむけて」	開催年 2023年～2023年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	マサチューセッツ工科大学社会科学芸術人文学部			
中国	北京大学人文学部・中国語文学系			